2月

▼九州厚生局と長崎県監査で懇談（2/1）
高点数を指摘事項理由から除外することなど、改善を求め懇談しました。

県国保視局との懇談（2/14）
4協会（福岡・福岡県科・佐賀・長崎）で、カルテの単票、検査書類等のコピーや持ち帰りなど、職員の対応を中心に改善を求めました。

◀市民公開講演会「難聴と認知症と補聴器と人工内耳」（2/29）
神田幸彦先生（長崎市・神田E・N・T医院）が講演し、104人が視聴しました。

3月

外来データ提出加算届出・データ作成説明会（3/13）
本田会長が外来データ提出加算の届出及び試行データの作成について説明し、県外を含む330人が参加しました。4月にも第二弾を行いました。

生活習慣病管理料（Ⅰ）（Ⅱ）への対応説明会（3/26）
特定疾患療養管理料の改編を説明し、医療機関における対応策を解説しました。長崎以外からの参加も含め400人が参加しました。4月にも第二弾を行いました。

共済制度何でも相談会（3/27、6/21、9/27、12/12）
保険医年金の受給の仕方をはじめ、会員からの相談に嶋監税理士が回答しました。

4月

▶智島昭邦名誉会長ご逝去（4/12）

協会活動に尽力された智島昭邦名誉会長が永眠されました（享年95歳）。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

保険審査対策セミナー「コンピュータ審査への対抗策ー減点を防ぐレセプト作成のポイント」（4/12）
進む審査の効率化・標準化及びコンピュータ審査をテーマに講師団が解説し、122人が参加しました。

▼よい歯デー市民講演会＆お口の健康相談（4/14）
5年ぶりに開催。講演「今の歯科治療について－保険診療でここまでできる－」を行い、長崎大学病院口腔管理センター講師の黒木琢文先生が講師を務め、34人が参加しました。

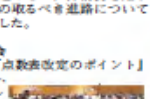
▶若手医師の会懇話会（4/17）
「救急の場での本音を語り合おう－救急隊と医療機関との連携はどうあるべきか－」を行い、講師は長崎市消防局管防課が務め、23人が参加しました。

◀相続対策セミナー（4/26）
吉岡恵一税理士（長崎市・嶋会計センター）が改正された相続税及び贈与税について解説しました。33人が参加しました。

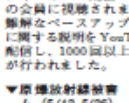
▼役員学習会「平和を創る道の探求ーウクライナ情勢、台湾、ガザ侵攻等を踏まえー」（4/27）
元外務省情報局長で東アジア共同体研究所所長の孫崎享氏を講師に迎え、ウクライナ・台湾・パレスチナ問題などの世界情勢を踏まえ、日本の取るべき道筋について講演しました。

5月

新点数検討説明会
医科は保団連「点数表改定のポイント」『新点数運用Q&A』を解説し、697人（275院所）が参加しました。歯科は「2024年改定の要点と解説」を使って解説し、136人（80院所）が参加しました。いずれも説明会後はYouTube協会チャンネルで配信し、多くの会員に視聴されました。無解なペースアップ評価料に関する説明をYouTubeで配信し、1000回以上の再生が行われました。



▼原爆放射線被害　長崎・広島リレーシンポジウム（5/12、5/26）
被爆地同士の交流を図り、被爆地域の拡大や手帳交付などを進めていくために両市で行いました。本田会長が「被爆体験者問題」の全面解決を訴え、市民やマスコミにアピールしました。100人が参加しました。



補助金セミナー「補助金のススメ～損していませんか～」（5/23）
株式会社ライトアップ（東京）の江尸安光氏を講師に7人が参加しました。動画配信も行いました。

6月

長崎市議会・経済委員会「現行の保険証存続を求める自治体意見書陳情説明」（6/25）
本田会長が出席し、混乱を来している医療現場の状況を動画を用いて説明しました。意見書採択には至りませんでしたが、市民に丁寧な対応を求める意見が散見されました。

◀写真コンテスト審査（6/29）
テーマは「フリー」で会内外から87作品の応募がありました。会長賞をはじめ、6人の入選者を決定し、受賞作品は定期総会のブースに展示し、協会新聞8月号及び協会ホームページに掲載しました。

7月

◀歯科施設基準研修会（7/13）
黒川英嘉先生（別府口腔保健センターセンター長）を講師に40人が参加しました。

▼第47回定期総会（7/20）
23人の新執行部が選出され、記念講演「枝民器を創ってもなお、捨てられないアメリカ」と題して長崎大学名誉教授の朝長万左男先生が講演しました。120人が来場し、ロビーには写真コンテストの入賞作品も展示しました。

▼納涼ビールパーティー（7/27）
4年ぶりに開催し、32院所129人が参加しました。福引き中、ながさきみなとまつりの打ち上げ花火を間近で見ながら、冷えたビールで暑さを吹き飛ばしました。

▶承継開院セミナー（7/31）
嶋監税理士が診療所の事業継承と開院について解説し、第三者承継を経験した会員からの報告もありました。

8月

▼市民公開講座「帯状疱疹とその予防について」（8/24）
渡辺大輔愛知医科大学皮膚科学講座教授が「50歳を超えた方は知っておきたい　帯状疱疹とその予防について」をテーマに講演し、Webも併せて62人が参加しました。

9月

▼すべての被爆体験者に手帳の交付を　署名提出（厚労省・長崎県・長崎市）
6月末から取り組んだすべての被爆体験者に手帳交付を求める署名28,056筆と長崎地裁判決後に取り組んだ、棄訴原告を除訴せず、敗訴原告を含め全ての被爆体験者を救済を求めるネット署名1,000筆を関係先に提出しました。鈴木長崎市長には直接手渡しました。反響が大きく、テレビ・新聞で大きく報道されました。

▼歯科研究会
9/7「軟組織小手術と注意すべき軟組織疾患」
山田明弘先生（長崎大学医歯薬学総合研究科口腔顎顔面外科学教授）9人
2/14「開咬病のアルツハイマー型認知症への関与メカニズム」
武洲先生（九州大学歯学研究院准教授）42人

医科研究会「慢性疾患ガイドラインシリーズ」（9/18・30）
地域包括診療加算等の研修要件に対応した研究会
「高血圧治療ガイドラインを日常診療に活かす」
河野浩章先生（長崎大学病院循環器内科准教授）46人
「動脈硬化性疾患予防ガイドラインを脂質異常症の日常診療に活かす」
吉本由紀先生（長崎大学病院循環器内科講師）31人

▶長崎県社会保険福祉協議会いのちをもるてつばし行動（9/25）
市民に「今こそ、社会保障の充実を」とアピールする街頭宣伝を行い、渡邊常任理事が歯科医療の改善を訴え、浜町アーケードをパレードしました。

「病院経営に役立つクレジットカードの活用法」（9/28）
経営に役立つクレジットカードの活用法について、（一社）法人クレジットカード相談士協会代表理事の花田敬氏が講演し、42人が参加しました。

▶協会オリジナルの一冊「外来／在宅／リハビリデータ提出加算の手引」発行
届出及びデータの作成を丁寧に解説した手引書を発行し、会内外に宣伝しました。協会が軌道するデータ作成支援ソフト「SELF」もPRしました。

10月

▼医科歯科指導対策講習会（10/12）
指導・監査の仕組みや長崎における指導の現状のほか、カルテ記載の留意点について説明し、21人が参加しました。

▶いい歯デークイズ＆アンケート（10/10～11/30）
県民への啓蒙を目的として毎年実施。今回は1,004通の応募がありました。

▼スタッフ向けセミナー「その対応大丈夫？　もしクレームになったら…クレーム対応の基本と対策」（10/22）
佐竹様子氏（福岡市・ケイズオフィス代表／医療専門接遇講師）
144人が参加しました。7/16には講平（対面）で開催し、32人が参加しました。

衆議院議員選挙（10/27・投開票）
県内3選挙区の衆院選立候補予定者へ13項目の保険医の要望を送付し、公約に反映することを求めました。3月の長崎3区補選では、医療問題・県政に関するアンケートを行い、会員に周知しました。

▼ちょっと待った！市民公開オンライン学習会（10/28）
「これからどうなる私たちの保険証」と題して、経済ジャーナリストでテレビでもお馴染みの荻原博子氏が講演し、従来の健康保険証が必要なことを訴え、会員・市民など72人が参加しました。

11月

▼革の花会例会「長崎歴史散歩」（11/6）
「坂本国際墓地に眠る異国の人々」と題し、ブライアン・バーケガフニ氏（長崎総合科学大学教授、グラバー園名誉園長）が講演。23人が参加しました。

▼医科在宅医療点数講習セミナー（11/14・21）
知っておきたい在宅医療点数の知識「基礎編」
協会講師団
保団連発行『在宅医療点数の手引』を使用し37人参加

▼長瀬出国会議員・厚労省に"現行の保険証を残して"を要請（11/28）
従前の保険証を残すこと、生活習慣病管理料・療養計画書作成の見直し、新たな被爆体験者医療費助成制度の診断書料の見直しを求めました。西岡・山田議員と懇談しました。
保団連では全国で集めた178万筆分の署名を賛同する国会議員に提出するなど、奮闘に励んだ。